

第10回 JCHO高岡ふしき病院地域協議会

日時 令和2年 2月27日(木) 15時00分
場所 JCHO 高岡ふしき病院2階会議室
各委員 医師会：一般社団法人 高岡市医師会監事
 たみの医院 院長 民野 均
行政：高岡市福祉保健部健康増進課長
 ・保健センター所長 山本 美由紀
地域：公益社団法人富山県アイバンク理事長
 JCHO高岡ふしき病院支援の会 会長 大黒 幸雄
病院：高岡ふしき病院 院長 高嶋 修太郎
 同 副院長 宮崎 幹也
 同 看護部長 田井 雅代
 同 事務長 木下 敦士

内 容

委員紹介

(高岡ふしき病院 和田副院長 欠席)

高嶋院長から、第10回地域協議会開催の挨拶があり、協議会の開催趣旨(独立行政法人地域医療機能推進機構協議会設置要綱第5条)により、高嶋院長が議長となり議事に入った。

議 事

1、地域協議会の目的及び運営実績と運営方針、在宅支援の取組み、今後の当院の役割について

(1) JCHO及び当院の運営状況について

(2) JCHOにおける当院の位置づけと、今後の運営方針について

院長より説明

地域医療構想におけるJCHO高岡ふしき病院の展望について

- ・厚生労働省が地域医療構想に関して公表した「再検証要請対象医療機関」について説明した。
- ・高岡医療圏の地域医療構想調整会議の予定について説明した。
- ・JCHOの中期目標において、当院は独立採算で地域包括ケアシステムを中心とした診療を行っていることを説明した。

- ・在宅医療、病児保育、認知症診療など地域のニーズに沿った特殊診療を実施していることを説明した。
- ・高岡医療圏では回復期の病床が不足しており、また地域の一般病院と競合していないことを説明した。
- ・地域住民や地域の医療・介護・福祉関係者から支援を受け、連携していることを説明し、「JCHO高岡ふしき病院支援の会」や「高岡ふしき（伏木・古府・太田）地域包括ケア講座」の活動内容を紹介した。

最近の動き

- ・9月より電子カルテシステムの運用を開始し業務効率が高まったことを説明した。
- ・整形外科など医師不足への対応のため、大学と積極的に連携していることを説明した。
- ・令和2年度より医学生、薬学生に対する奨学金制度が始まることを説明した。
- ・これまで黒字経営であったが、特に今年度は健診業務が増えたことにより病院収支は安定した黒字であることを説明した。
- ・病病連携や病診連携を積極的に行っていることを説明した。
- ・JCHO版病院総合医育成プログラムに医師1名が登録し、研修期間中であることを説明した。
- ・「高岡ふしき（伏木・古府・太田）地域包括ケア講座」の取り組みと今後の活動について説明した。

2、各委員からの意見

高嶋院長

当院へのご要望、ご意見は如何でしょうか。

民野委員（高岡市医師会監事）

整形外科など医師が不足しているが現状はどうですか。

高嶋院長

大学に所属する医師が減ったことにより、応援体制が厳しくなりました。大学とはしっかり連携をとっています。医学生への奨学金制度を活用し、医学生、大学、当院の3者がメリットになるよう役立てていきたいと思えます。

宮崎副院長

医師不足により当直医のローテーションに影響が出てきています。また、働き方改革により大学からの派遣もある程度制限が出てきます。大学以外に開業医の先生にお願いして確保をしています。

大黒委員（富山県アイバンク理事長）

地域住民として手助けできるようなことがあれば行いたいと思います。

民野委員（高岡市医師会監事）

県内の医師会の人数をみても人数が少なく、年齢も高齢化しています。開業される先生も少なく、まずは富山県に残ってもらわないといけない。地元で勤務し、地元で開業していただかないといけないです。

高嶋院長

厚生労働省のセミナーに参加し、医師の働き方改革について講演を聞いたが、医師不足ではできないと感じました。これまで国の方では地域枠で医学生を残すなど取り組んでいます。県内の他の病院からの声を聞いても半減しているとのこと。県内に医師を残すことが必要です。

山本委員（高岡市福祉保健部健康増進課長）

高岡市に急患センターがあり、小児科や産科で不足していますが、整形外科も不足していることがよくわかりました。

医師不足は都会でも同じでしょうか。

高嶋院長

初期研修医制度が始まってから都会には医師が集まるようになりました。都会では専門の外来のみでも十分収支が合うと聞いています。

宮崎副院長

当直医のローテーションなど3交替で、できる病院もあるそうです。

大黒委員（富山県アイバンク理事長）

アイバンク協会が集まる機会がありましたが、眼科に来る先生も少なくなっているそうです。24時間体制が必要なのですが、若い先生方は嫌がるそうです。以前とは医師の考え方が違ってきているようです。

宮崎副院長

若い医師に、昔の体験で3日間泊まりこんだ話をしても、考え方が違うと感じました。勤務時間で割り切る人もいます。

高嶋院長

教育制度も大きく影響しています。

山本委員（高岡市福祉保健部健康増進課長）

収入の説明で、健診部門が1割増とのお話がありましたが、営業活動を積極的に行ったのでしょうか。

木下事務長

2,000人の健診業務を受けることができました。きっかけは企業の集団予防接種において健康管理センター職員の対応が良く、その中で健診の相談があり実現しました。現場の職員が努力しました。

宮崎副院長

市の乳がん検診が増えています。婦人科の健診が増えています。マンモグラフィーを購入したことも影響しています。

民野委員（高岡市医師会監事）

50人未満の事業所の健診業務を行うとよいと思います。

木下事務長

民間事業者が加入する協会健保から情報を得て、生活習慣病を受けていただくように働きかけています。

山本委員（高岡市福祉保健部健康増進課長）

市の健診でも若い人のがんの発見があるが、忙しいとか、職場では機会がないなどの声も聴いています。

木下事務長

有名人のがん公表など、ニュースで若い方の乳がんへの理解が深まってきていますので、アピールして機会を増やしていきたいと思います。

大黒委員（富山県アイバンク理事長）

大きくない会社では、まとまらないと健診バスが来てくれないと聞きました。2、3の会社が集まればできることを広報してくれるとよいです。

木下事務長

商工会議所などの会場を借りて健診を行うことを推奨しています。

民野委員（高岡市医師会監事）

開業医の立場から、回復期がすぐに在宅になり苦勞していることがあります。富山市の病院から退院した方のリハビリができていなかった。訪問リハビリを行っているところも少ない。日数で退院させているが、一人ではできていないのが現状で、家族もリハビリを知らないということがありました。

高嶋院長

富山市の方には伝わっていなかったのかもしれませんが。当院に相談していただければ、本人が希望すれば引き受けます。

大黒委員（富山県アイバンク理事長）

自分自身も手術を受けて、大学とふしき病院が繋がっていることが大きく安心できました。このような形を継続してほしいと思います。

高嶋院長

当院は、病病連携、病診連携を行い、急性期病院の役割、自宅に帰れない人の慢性期の役割もありますので、継続していきたいと思います。

宮崎副院長

高齢者だけの家庭が増えています。腰痛や肺炎で入院させてもらえないといった相談も受けます。当院は空きがあれば入院していただいています。独居など退院後の不安がある方もいますので、対応していきたいと思います。

民野委員（高岡市医師会監事）

土曜日の診療は毎週できないでしょうか。病気になる人は土日が多く、ふしき病院は第2・第4が開いており入院ができるので安心できます。開業医の年齢も高くなってきています。

高嶋院長

働き方改革や医師不足の課題があるため難しい状況です。シフトが組める状況ではありません。また、近隣の開業医の先生方の意見も聞いていきたいと思います。

医師確保は難しいのですが、専門医研修ができる病院にならないといけないと思っています。医師不足の診療科は教育ができません。今後も医師を増やすために、若い医師が来ていただけるような病院の魅力を構築していきたいと思います。医師の奨学金制度が始まりますが、すぐに医師が増えるわけではありませんが、4、5年で軌道に乗ればと思います。

これをもちまして地域協議会を終了させていただきます。
本日はありがとうございました。